

令和5年度進行管理 戦略点検シート

◎基本政策 1 子どもたちに輝く未来をつなぐ

主要課題	No. 9	共に生きるための豊かな心と行動力（共生力）の育成
-------------	-------	--------------------------

● 4年後の目指す姿・計画期間の方向性 ● 主要課題の戦略シートで設定している「4年後の目指す姿」と「計画期間の方向性」を転記しています。

4年後の目指す姿	共生社会の実現に向け、特別な教育的支援を必要とする幼児・児童・生徒の能力を最大限に伸長するための、総合的な支援体制が強固になるとともに、子どもたちが他者や社会との関わりについて理解を深め、互いを信頼し、助け合える豊かな心と行動力を育てている。
計画期間の方向性	<p>○ 道徳教育の推進 いのちの大切さや、地域社会・地域文化等への理解を深める機会を充実し、子どもたちが自立した人間として、他者とともによりよく生きるための道徳性を育てていきます。</p> <p>○ いじめ問題の対策強化 いじめや暴力行為等の未然防止や早期発見・早期解決に向け、関係機関との連携を深めるとともに、組織的な対応力の強化に取り組みます。</p> <p>○ 特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒への合理的配慮の提供 インクルーシブ教育システムの構築に向け、幼稚園・学校の状況や、保護者・区民の幅広いニーズに対応するため、更なる合理的配慮の提供等、特別支援教育を推進します。</p>

0 昨年度の施策の方向性（昨年度の点検における「4 今後どのように進めていくか」）

道徳教育の授業公開やいじめ問題対策の研修会及び協議会は、オンラインの活用などを含めて実施していきます。特別支援教育担当指導員等の安定的な支援体制の構築に向けて、大学との連携及び東京学校支援機構（TEPRO）の活用を検討していきます。

令和5年4月に関口台町小学校に知的障害特別支援学級を開設し、特別支援学級の体制を強化していきます。

事業費（令和4年度） 上段：実績 下段：当初予算

1 どのような事業で・何をしたか（実績） 戦略シートの課題の解決手段として紐づけた計画事業について、「何をしたか」「何がどうなったか」を記しています。

事業番号	事業名称	所管課	事業の持つ役割	事業費(千円)
39	いじめ問題対策事業	教育指導課	いじめ問題の組織的な対応力を強化する。	2,264千円 (2,706千円)
	主な取組実績			単位 H30(2018) R1(2019) R2(2020) R3(2021) R4(2022) R5(2023)
	① いじめ問題対策協議会		回	2 2 1 1 1
	② 研修会参加者数（延べ）		人	119 137 48 80 100
	③ いじめに対する法律相談		件	4 9 4 2 7
40	特別支援教育推進事業	教育指導課	特別な支援が必要な子どもたちが安心して学校生活を送れる環境を整える。	394,847千円 (453,037千円)
	主な取組実績			単位 H30(2018) R1(2019) R2(2020) R3(2021) R4(2022) R5(2023)
	① 特別支援学級設置校数（固定制）		校	10 10 11 12 12
	② 交流及び共同学習支援員の配置（特別支援学級）		人	23 35 39 52 57
	③ 特別支援教育担当指導員の配置（特別支援教室）		人	38 59 63 65 55
41	文京ふるさと学習プロジェクトの推進	教育指導課	子どもたちの、地域社会・地域文化等への理解を深める。	5,004千円 (5,075千円)
	主な取組実績			
	R1(2019)	文京区の伝統や文化等を学び、理解を促進するための授業や学びの時間を全校園で実施しました。また、ふるさと学習副読本と指導書を改訂しました。		
	R2(2020)	令和元年度に引き続き、文京区の伝統や文化・歴史等について、ふるさと学習副読本を活用し社会科や総合的な学習の時間を中心に学びを深めました。また、ふるさと学習副読本と指導書を改訂しました。		
	R3(2021)	令和2年度に引き続き、文京区の伝統や文化等を学び、ふるさと文京への理解を促進するための授業を全校園で実施しました。また、ふるさと学習副読本と指導書を改訂しました。		
R4(2022)	ふるさと学習副読本を活用し、文京区の伝統、文化、特徴等について学ぶことを通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養いました。また、ふるさと学習副読本と指導書を改訂しました。			

42	いのちと心の教育の推進事業	教育指導課	生命の大切さと他者を思いやる子どもたちの心を育む。					1,638千円	
	主な取組実績		単位	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)
	① いのちと心の授業		校	30	30	30	30	30	
	② 道徳授業地区公開講座		校	30	30	30	30	30	
③ 移動動物園（幼稚園）		園	10	10	10	10	10		

●特記事項（実績の補足）

2 現総合戦略において、社会ではどのような動きがあったか（社会環境等の変化） 人口の増減や、国や都の動きなど、主要課題の背景に関して、令和2年度から5年度までの現総合戦略の計画期間において、「何があったか」「今後予想される」等の社会の変化を捉えています。

チェック	チェック項目
無	主要課題に関連する法改正があった（今後、法改正がある）
無	主要課題に影響を及ぼす変化等があった（今後、変化等の可能性がある）

3 現総合戦略における成果や課題は何か（点検・分析） 1と2に基づき、計画期間の方向性ごとに、令和2年度から5年度までの現総合戦略の計画期間において、「課題解決にどのような成果があったか」「成果が出ない要因は何か」「新たな課題が生じていないか」などを点検・分析します。

○道徳教育の推進

道徳授業地区公開講座では、保護者から道徳授業や道徳教育への取組に関するアンケートをとり、その結果を各校の道徳授業の質の向上等に生かすことができました。

より多くの保護者・地域の方々に参加していただくために、広報の仕方を工夫していく必要があります。また、講師の選定、意見交換のやり方についても、各校の取組状況等を共有するなどして、改善を図る必要があります。

移動動物園では、幼児がウサギやチャボなどの小動物に直接触れ合える機会となり、生命を尊重する精神を育むとともに、生きることの大切さなどを伝え、自己肯定感の向上を図りました。

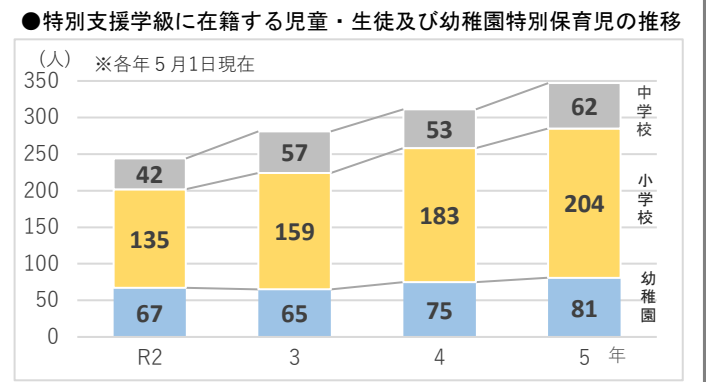
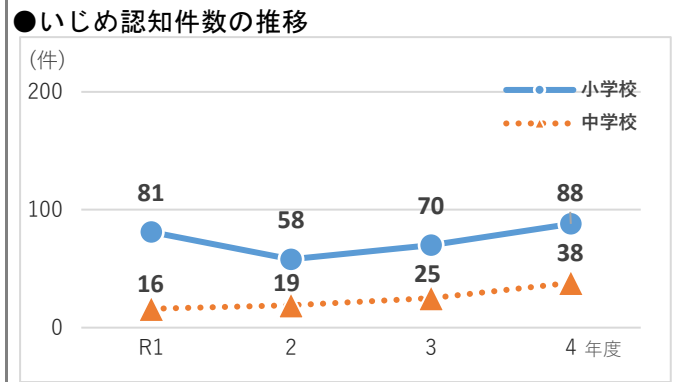
○いじめ問題の対策強化

教員の経験年数に応じた研修を継続して行い、いじめ問題への対応力向上を図りました。また、学識経験者や関係機関から本区がいじめ問題への対策について意見をいただき、課題の改善に役立てています。毎年行っている学校評価では、各校・園のいじめ問題への対応が保護者に十分に伝わっていないことが課題として挙げられています。学校・園の取組を保護者会などで周知する必要があります。

今後も引き続き、研修を適切に実施し、学校の対応力を強化することで未然防止や早期発見に努めるとともに、関係機関と連携した組織的な解決に取り組めます。

○特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒への合理的配慮の提供

令和2年度に第八中学校に知的障害特別支援学級を、3年度に茗台中学校に自閉症・情緒障害特別支援学級を設置しました。インクルーシブ教育システム構築事業では、継続的に講師を招いた校内研修を実施し、教員による合理的配慮の提供についての理解を深めることができました。また、交流及び共同学習支援員や特別支援教育担当指導員等に対しても、年に3回の研修を毎年行い、特別な支援を必要とする子どもたちへの支援のあり方について、理解を促進することができましたが、引き続き、安定的な支援体制の強化が課題となっています。



4 次期総合計画において、どのように進めていくか（展開）

3を踏まえ、「何の対応が必要か」「何をどのようにしていくか」など、令和6年度から9年度までの次期総合計画の計画期間における戦略としての進め方を記しています。

道徳教育については、子どもたちの道徳性を育むために、道徳の授業改善を図るとともに、学校・保護者・地域が一体となって進める道徳教育の推進を図ります。

いじめ問題の対策については、いじめや暴力行為等の未然防止や早期発見・早期解決に向け、組織的な対応力の強化を含めた取組を推進します。

特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒への合理的配慮の提供については、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の趣旨や合理的配慮の提供等について、教職員の理解促進を図っていきます。また、子どもの教育的ニーズに応じた、支援員等の人的支援を含めた基礎的環境整備の充実を図ります。

5 6年度、事業をどうするか（事業の見直し）

主要課題に紐づけられている個々の計画事業の6年度の検討の方向性を「継続」「レベルアップ」「見直し・縮小」「事業終了」「計画変更」で記します。

事業番号	計画事業名	所管課	次年度の方向性
39	いじめ問題対策事業	教育指導課	継続
40	特別支援教育推進事業	教育指導課	レベルアップ
41	文京ふるさと学習プロジェクトの推進	教育指導課	継続
42	いのちと心の教育の推進事業	教育指導課	継続